



「三人」

1942年ごろ、鉛筆・紙  
24・0センチ×53・2センチ（個人蔵）

松本竣介（1912〜48年）

下部はおそらく竣介 情です。

大川美術館企画展から

〈名画の扉〉

自身よっての切断で 竣介の親友で彫刻家  
しよう。禎子夫人が編 の舟越保武は後年、幼  
んだ油彩集によれば、 い莞が父竣介に向かっ  
「子どもたち」（194 て人さし指で宙に文字  
2年1月、油彩・カン を書いて会話をしてい  
バス）のために描かれ る姿に接した折のエピ  
た素描のうち一枚と ソードをのこしていま  
おもわれます。その油 す。病によつて聴覚を  
彩画は、現在所在不明 失っていた竣介は、わ  
です。 が子の片言を聞くこと  
視線が交わらない3 ができませんでした。  
人は向き合いつつも無 子どもの声を聞くこと  
言のまま。そこに誰か のない竣介にとって、  
の右手が下のほうから 子どもの姿は、一層無  
すつくとびてきて、 垢で純粹な存在として  
静寂の画面にやわから たらえられていたので  
な動きを醸していま しょうか。気配そのも  
す。大人とも子供とも のをどとめて美しい一  
つかない、ときに菩薩 点です。（小此木）  
の指にさえ見えてくる ※「松本竣介子ども  
よつな不思議な手の表 の時間」は16日まで。